

おちかとうみんかんだより

第139号 平成30年5月7日発行

壁面が時を超えて復活！！ 「野外アート教室」



みなさんは養寿園付近の護岸壁に描かれている壁画をご存知でしょうか？20年以上前、当時の子ども達が水族館をイメージして描いたそうですが、時の流れとともに色はがれ落ちてしまいました。

そこでおちか山学校では3月26日（月）、「野外アート教室」と題して壁画の修復に取り組み、14名の参加者が服や靴、髪の毛を汚すなど悪戦苦闘しながらも、5枚の壁画を修復することができました！

修復の際には色はがれて以前に何が描かれていたか不明の箇所も多かったのですが、そこは参加者が持ち前の絵心で見事にカバーしてくれました。

平成29年度の活動では、12枚ある壁画のうち、計8枚の修復に成功しました。残る4枚については今年度の山学校の活動として近日中に取り組みますので多くの方の参加、応援をよろしくお願いいたします！

平成30年度小値賀少年少女合唱団始動！

合唱団では4月21日（土）総合センター町民ホールにおいて入団式を行い、活動内容の確認や団員による自己紹介、自身の目標についての発表を行いました。

今年度の団員数は12名（4月時点）で、早速7月に諫早市で開催される「第46回長崎県少年少女合唱団合同演奏会」に向けての練習を開始しています。

今年度も町内外の行事に参加しますので応援の程よろしくをお願いします！

公民館では引き続き合唱団員を募集しております。小中学生で音楽が好きなあなたの参加を待っています！



第42回子どもの日大会開催！

日時 5月13日（日） 9:00～
場所 小値賀町離島開発総合センター

・「劇団とんと」の児童劇や「ちかはな吹奏楽団」の公演、ほかにもマジックショーや楽しいゲームがもりだくさん！

ただ今総合センターでは、こいのぼりが空を優雅に泳いでおります。公民館では不要なこいのぼりを集めておりますので提供可能な方はぜひ公民館にご連絡ください！



～図書館からのご案内～

図書館の「本」の宅配サービス！

小値賀町立図書館では、「本を読みたいけれど様々な事情で図書館まで行けない。」という方に、読書を楽しむことができるよう「本」の宅配サービスを行っています。大島や納島などの離島地区の方もぜひご利用ください！町営船に預ける所までは、図書館が行います。詳しくは、図書館（☎56-2711）までお問い合わせください。

宅配サービスのご利用方法

- ◆電話で、読みたい本をご連絡ください。
- ◆受付け後、職員が配達いたします。また、回収にも伺います。
- ◆貸出期間は、13日間です。
- ◆貸出冊数は、1人、本10冊、CD1枚 までです。
- ◆以前借りた本は、このとき返却できます。
- ◆無料です。
- ◆図書館の休館日の利用はできません。（月曜日、最終金曜日、年末年始、臨時休館日 など）

※電話連絡後、すぐに（当日中に）お届けするということではできませんのでご了承ください。

CDや雑誌も貸出ししています！



遊遊句抄

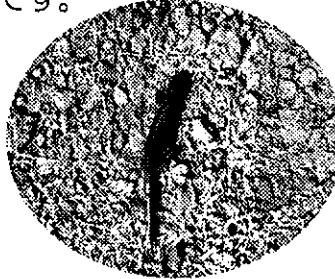
4月【兼題】日永（ひなが）、花見 葱坊主（ねぎぼうず）

出刃包丁鯛の身捌き島花見	凱旋の花見の諸将史に残り	さつき見た地蔵に似てる葱坊主	ねぎ坊主君への願い何たのむ	咲かせるか花見の夜にハートの芽	無住寺に夜の帳や花宴	田仕事の老いに堪える日永かな	廃寺のはなやぎぬるは花見かな	葱坊主ぶいと拗ねたるをんなかな	遠近の田に在る人に日永し	葱ぼうず解けて坊主も半ズボン	ほんほりに花見の女の千鳥足	戦死者の御霊拝して花見かな	饒舌も言葉忘れる日永かな	弁慶のごとき佇む葱坊主	姉妹逢ひ老舗の喫茶日永まで	うすみゆく日永の浜に佇めり
増円	小梅	利石	一穂	月歩	値賀助	虫砂男	紫紅	香松	松月							

カスミサンショウウオ発見！...

なにこれ？

3月、田植えの準備で水路に溜まった土砂をスコップで取り除いている時です。冬眠中のカエルやイモリ(アカハラ)がたくさん出てきました。突然眠りをじゃまされ、寝ぼけた様子で動きの鈍い面々に、「もう春が来とるぜ。」と声かけながら作業をしていると、イモリと同じ四足有尾類の生き物がちょろちょろと動きました。黒っぽい背中と赤い腹のイモリと違って、全体的に灰色っぽくヌルヌルした感じ。動きもやや活発。もしや？咄嗟に捕まえ・・・思わず叫びました。「ワオーッ！大発見！！」



正体はこれだ！

なんとこれがカスミサンショウウオでした。カスミサンショウウオは、カエルやイモリと同じ両生類。幼生は水中で生活し、エラ呼吸。変態すると肺呼吸へと変わり、陸上生活に適応する。ウオという名がついているので、魚類と勘違いする人も・・・。西日本の丘陵や平野部の湿地にすみ、落ち葉や腐植土の下にひそみながら、ミミズやクモ、土壌小動物などを捕食して暮らしている。

小値賀では、昭和40年代には「見かけなくなった。」(小値賀町郷土誌)と言われ、私自身はこれまで一度も見たことがありませんでした。この初めての出会いに、つい感激の大声を上げてしまったのです。

昭和30年代から40年代にかけて、生物を取り巻く環境が厳しく変化しました。その結果、私たちの周りに当たり前のように生息していた様々な生き物が、減少あるいは絶滅してしまいました。小値賀でも、道端にごろごろとしていたオントロジョーコ(ヒキガエル)や田んぼのドジョウ、ホウネンエビなどを見かけなくなったのです。カスミサンショウウオも同じ運命をたどりました。



発見の意義

ところで今回見つかった意義は大きいと思います。小さな生き物たちにとっては、昭和から平成にかけて苦難の連続だったことでしょう。害虫防除の農薬散布、怪物のような耕運機やトラクターからの攻撃、地球がひっくり返ったような畑総事業による大地異変 e t c. 厳しい環境の変化で仲間たちが次から次へと命を落としていく中、細々と、しかし、たくましく自らの子孫を残し続けてきた個体と家族が居たわけです。すごい生命力です。他のオントロジョーコなども、生き延びている可能性を示唆しています。

さらに最近の田んぼを見ていると、生物環境は昔に比べて良くなっている気がします。そのことが、今回の発見につながったと思います。田んぼで出会う生物に目をやると、イモリは50年前よりも確実に増えています。カエルもアマガエルに加え、ツチガエル、ヌマガエルなども増えています。本土では絶滅危機種となっているメダカも小値賀では健在です。いい傾向です。小さな生物にとって住みやすい環境というのは、われわれ人間にとっても安全な環境ということでしょう。このことが大事です。

カスミサンショウウオもこれから先、田んぼや沼地でふつうにみられるほど個体数が増える日が来てほしいと願っています。

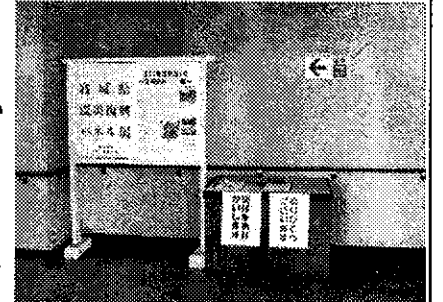


忘れない！というボランティア

3月の後半に「3.11を忘れない！震災復興パネル展」を開催しました。その案内チラシにこんな呼びかけを書きました。

呼びかけ

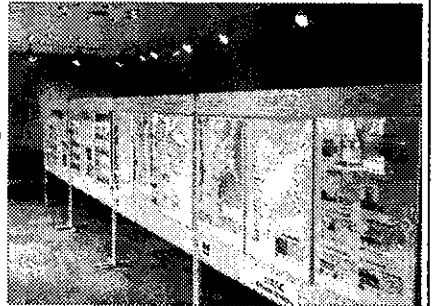
「未曾有の大災害から、7年目の春を迎えようとしています。2万人近い亡くなった方と2500を超える未だに行方の分からない方たち・・・。現地は今でも、言葉では表現できない深い悲しみに包まれています。『時がたち忘れられることが一番悲しい。』
奇跡的に助かった被災者の言葉です。東北から遠く離れた小値賀町ですが、記憶から消え去ることがあってはなりません。(後略)」



入場者50余名。子ども8名、残りは大人の方々。多忙な中、わざわざ町民ホールまで来ていただいた方に感謝します。

感想ノートを書いていたら、こんな一文をいただきました。

○小値賀町民全員より、たくさんの方が命を落とされて、本当にお気の毒で子どもたちとも話をしました。もう少し写真があると子どもにも理解でき、災害のおそろしさが伝わるかなと思いました。



子どもと一緒に観て、震災について子どもと会話する。そして命の尊さや家族の大切さを実感する。パネル展を通して、そんなことができたらいいなと思っていました。ありがたい感想です。

おちか音楽祭の時、一人の少年が入場者名簿にサインをし、パネルを一枚一枚丁寧に見学していました。もしかしたら、パネルの中身は少年には難しかったかもしれませんが、それでも彼の小さな胸の内には、東北で起こった未曾有の災害のこと、元の生活を求めて必死で頑張っている人がいることなどは刻み込まれたに違いありません。(そう願っています。)



もう一人の方の、感想を紹介します。

○私たちにできることは、3.11を忘れないこと。そして、気にかけることだと改めて感じました。被災地のために、直接できることはなかなかありませんが、東北の気になる商品を買ってみる、テレビや本などがあれば関心を向けるなど、小さなことで自分ができていることを継続してできればいいなと思いました。

同感です。私たち誰もができること・・・それは「3.11を忘れない」ということ。日本の東北でたくさんの尊い命が奪われた事実を忘れないということ。父や母の命日を忘れないのと同じように、日本人として「3.11を忘れない」。それが東北の方に対する最大のボランティアだと思っています。

町民のみなさん。この「忘れないというボランティア」に、ぜひご参加ください。